

# 「主体的に考え表現できる子ども」を育てるために

～全国学力・学習状況調査結果等や教育課程研究集会からみえた成果と課題を踏まえて～

本リーフレットでは全国学力・学習状況調査結果及び教育課程研究集会で確認されたことを踏まえ、2つの提案をします。

## 全国学力・学習状況調査の結果からみえた成果と課題(抜粋)

### 各教科の調査結果から

- 算数A・数学Aにおける数と計算の領域の正答率について、8割を超える設問が増えている。
- 理由を説明したり、資料等を読んでまとめたりする設問に対する平均正答率が低い。

### 質問紙調査から

- 言語活動の充実について、様々な教育活動を通じて学校全体で取り組んでいる割合が増えている。
- 授業において、ねらいの提示や振り返りの実施状況について、学校と児童生徒の捉え方に差がみられる。

### 教育課程研究集会からみえた課題

- 教材の工夫など、児童生徒の興味関心を高める授業実践事例が多く見られ、参加者の協議が深まっている。
- 身に付けさせたい力が不明確なまま、学習活動が展開されている事例がみられる。
- ねらいと評価の関連が弱い事例がみられる。

## 授業づくりの基本を押さえて、一步前へ!

### 提案 1 「ねらい」「指導」「評価」のつながりを意識した授業づくりをしましょう!

- ◆ 単元(題材)や授業の構想、実践において次の3点を押さえることが授業の基本となります。

#### 1 ねらいの明確化

- ◎ 学習指導要領を踏まえて、身に付けさせたい力を「ねらい」として設定する。

#### 2 ねらいを達成するための手だての設定

- ◎ ねらいを達成するための手だてを適切に位置付け、授業を実践する。

#### 3 適切な評価

- ◎ 評価規準に基づき、ねらいの達成状況を適切に評価し、授業改善に生かす。

#### ● 単位時間の基本的な学習過程(例)



### 主体性と思考力を育む「見通し」と「振り返り」

※学習指導要領では、学習意欲の向上と併せて学習内容の確実な定着や思考力・判断力・表現力等の育成の観点から、見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動を重視しています。

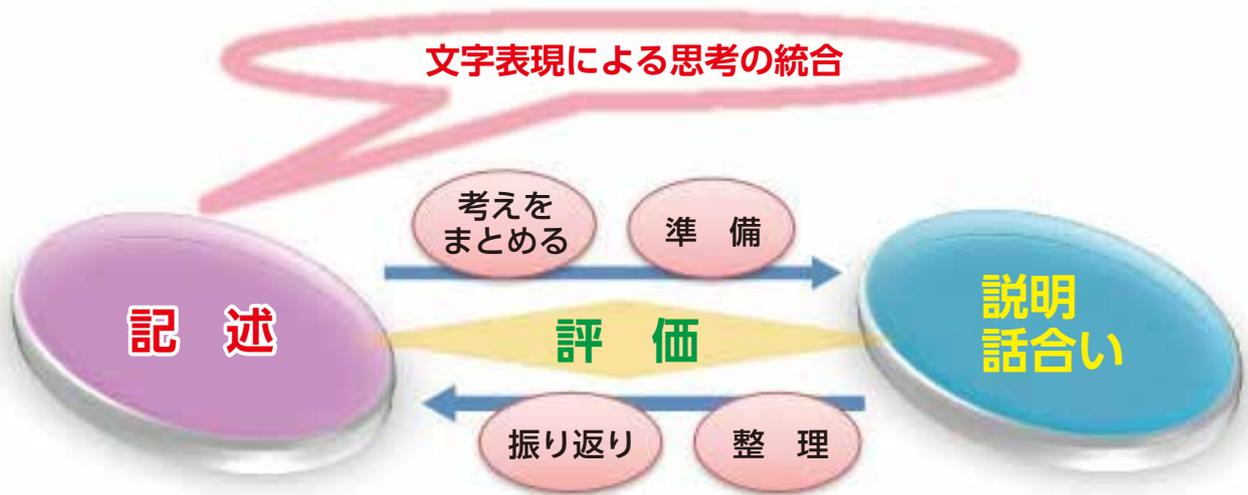
※平成25年度全国学力・学習状況調査からは、「見通す・振り返る」学習活動を積極的に行った学校ほど平均正答率が高い傾向がみられました。(裏面参照)

## 提案 2 自分の考えを文章にまとめる指導(記述)に力を入れましょう!

- ◆ 考えを深める場面などでは、説明や話し合いといった活動に加えて、考えを整理してまとめて書く活動も重視する必要があります。自ら整理しまとめることで、説明や話し合いの内容が深まり、思考力・判断力・表現力等を高めることにつながります。

### ● 「記述」と「説明」「話し合い」を意識的に関連付ける

授業のねらいの達成に向け、自分の考えをまとめ「記述」する活動と、言葉で人に伝える「説明」「話し合い」といった活動を相互に関連付けることが大切です。その際、児童生徒の発達の段階や教科の特性を考慮する必要があります。



#### 関連付けの例

- 「説明」や「話し合い」の前に自分の考えや判断の根拠を「記述」させる。
- 「説明」や「話し合い」を通して分かったことや考えたことを整理して「記述」させる。
- 「説明」や発表をした人の考えや意図を解釈させ、「記述」させる。

※教科の特性や学習活動、目的や必要などに応じて、図や表にまとめたり箇条書きにしたり、字数を制限したりするなど「記述」のさせ方を工夫することが必要です。

### ● 「記述」したことを「評価」に生かす

児童生徒が「記述」した内容は、評価の資料として有効に活用できます。学習のねらいの達成度を見取れるような記述のさせ方を工夫することが重要です。

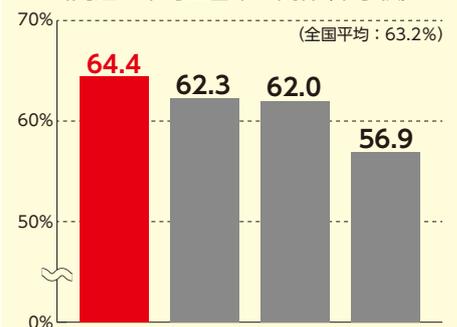
<平成25年度全国学力・学習状況調査におけるクロス集計から>

- 授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動



- 左記の活動を積極的に行った学校ほど、**国語B(活用)の記述式問題の平均正答率が高い傾向がみられる。**

(例)「授業の冒頭で目標を示す行動」と記述式問題の平均正答率の関係(中学校)



※左から順に活動を「よく行った」「どちらかといえば行った」「あまり行っていない」「全く行っていない」と回答した学校の平均正答率(国語B)